

能登の 海からのたより

2024.10 No. 82



「元日 水族館を襲った大地震」

2024年1月1日、のとじま水族館は大地震に襲われました。職員の多くは駐車場の車内で一晩を過ごし、翌朝館内の確認に向かうと水が噴き出している配管や天井が落ちた観覧通路など目を疑うような惨状が広がっていました。電気設備や水道も正常に機能しない絶望的な状況でしたが、一匹でも多くの生きものを救うため、ここから職員一丸となつての復旧作業が始まりました。

マダイ

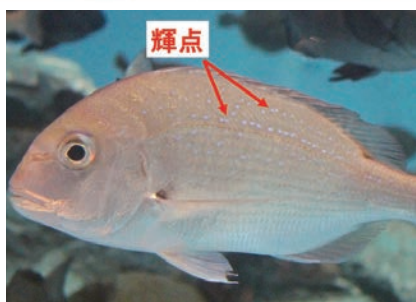
マダイはどんな魚？

マダイはスズキ目スズキ亜目タイ科に分類される海水魚で、スーパーや市場で「タイ」として売られている魚はこのマダイであることがほとんどです。日本では古くから高級魚とされていて、「めでタイ」にかけて祝いの席に用いられることが多いです。また、神社や神棚にお供えされる縁起物としても重宝されます。現在では盛んに養殖されており、昔に比べ比較的安価で購入することができるため食卓で目にするのもしばしば。しかし、値段が落ちたからといって味が落ちるわけではありません。マダイは「魚の王様」とよばれることもあるほど味のいい魚で、刺身、焼き魚、あら汁など、どのように料理してもおいしく食べられます。

マダイの体色

マダイは見た目が非常に美しく、鮮やかなピンク色の体色から石川県の一部地域では「桜鯛」とも呼ばれます。「輝点（きてん）」と呼ばれる青色の小さな斑点が背側に散らばっているのも美しいポイントの一つです。そんなマダイのピンクの体色はエサに由来します。マダイの好物はエビやカニなどの甲殻類で、その甲殻類の殻の中にはアスタキサンチンという赤色の色素が多く含まれています。好物であるエビやカニなどをたくさん食べて、美しいピンク色を維持しています。それでは輝点が青色なのは青い色素を持つ生きものを食べているからなの？と考える方もいるかもしれませんが、輝点の青色は色素によるものではありません。「虹色素胞（こうしきそほう）」という光を反射させる色素胞が青色の光を反射しているため、私たちの目には青色に光っているように見えるのです。

さて、ピンク色の体に青色の斑点と



いう一見目立つように感じる体色のマダイたちですが、海の中で天敵にすぐに見つかってしまわないのでしょうか。実はマダイたちの体色は陸上と水中で見え方が違います。海水の中では赤色の光はどんどん吸収されるため、水深が深くなれば深くなるほど、赤色のものは黒い影のような色に見えます。また、光が届きにくくなるため、輝点の反射する光も陸上で見るよりは落ちて見えます。つまり、陸上では美しく派手に見えるマダイたちの体色は、海の中では保護色になっているのです。

レクチャーホールのマダイたち

当館では「のど海遊回廊」や「能登と海と」などいくつかの水槽でマダイたちを展示していますが、1番見応えがあるのは「レクチャーホール」で展示しているマダイたちではないでしょうか。その数なんとおよそ2000匹！群れとなって光や音楽に合わせて右へ左へと泳ぐ「マダイの音と光のファンタジア」は圧巻です。どのようにマダイたちがショーを覚えたのかはショーの前に解説を行っていますのでぜひ「マダイの音と光のファンタジア」を見に来てください。

現在、元気にショーを披露してくれているマダイたちですが、私たちと同じように能登半島地震で被災しました。被災

当日は余震も多く、暗くなっていたこともあり、館内に入ることができなかったため、マダイたちの無事をしっかりと確認したのは翌日の午前中でした。水槽や配管は割れておらず、水漏れもなかったため、取り敢えず一安心。懸念は水温の低下でした。多くの魚類は飼育適性水温よりも低すぎる水温でエサを与えると消化不良を起こしてしまうため、レクチャーホールではマダイたちの代謝が落ちすぎないように水温20℃ほどで飼育しています。ですが被災してからしばらくは加温設備にダメージがあり、水温を維持することができませんでした。そのため短時間でおよそ13℃まで水温が低下してしまったのです。被災当日は15時にエサをたくさん与えたばかりだったので、そのエサが消化管内にある状態で水温がおよそ7℃も低下してしまうことによって消化不良が起こってしまうのではないかと心配でしたが、数日たっても死亡したマダイはほとんどいませんでした。つまり、今レクチャーホールでショーを披露しているマダイたちは、地震の揺れや水温低下に耐え、生き抜いた屈強なマダイたちです。ほかのマダイたちとは面構えが違う!?ぜひそんな一味違うマダイたちを見に来てあげてください。

〔木森〕



「令和6年能登半島地震」の被害状況

2024年1月1日16時10分頃、珠洲市を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7を観測した「令和6年能登半島地震」が発生し、当館がある七尾市能登島地区でも震度6強を観測しました。当館は毎年元日から通常営業を行っており、この日も閉館を約20分後に控え職員各自が作業を行っている状況でした。突然携帯電話のアラート音が鳴り、直後に大きな揺れに襲われました。私自身、普通には立ってられないほどの大きな揺れで、壁につかまりながら揺れが収まるのを待った記憶が今でも残っています。その後、各職員は館内に残っていた約200名の入館者の避難誘導を行いながら、災害時に避難場所として決めていた高台の駐車場へと避難しました。幸いにも入館者、職員にケガなどはなく、無事に非難を完了できたことは、これまでの避難訓練が少しでも役立ったのではないかと感じています。高台から水族館の様子をうかがっていると、携帯電話からは津波に関する警報の情報が流れてきました。その日の夜に入館者の方を島内の臨時避難所に案内する際に車で進むと、道路上に船外機が数隻打ち上げられていたことから、能登島の一部沿岸地域にも津波が到達していたことが確認できました。後日水族館裏の海岸線周辺を点検しましたが、当館での津波の被害はありませんでした。しかし発災翌日以降、臨時休館となった館内で、飼育生物や建物、設備、水槽などの状況の把握



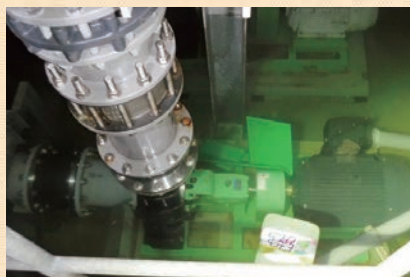
配管の破損による水漏れ



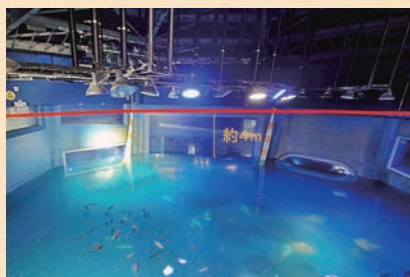
地震によってできたひび割れと段差

を余震に注意を払いながら進めた結果、建物や水槽の被害は比較的少なかったものの、配管の破損やポンプ、ボイラーなどの設備の故障、敷地内地面のひび割れが数多く確認されました。

「ジンベエザメ館 青の世界」では、配管の破損により循環ポンプなどの設備が水没し、水槽の水位が通常の約1/3まで低下、新たな海水を補給したものの水温の低下や水質の悪化がみられ、ジンベエザメ2頭をはじめ多くの飼育生物を失いました。



漏水により水没したポンプ



通常の約 1/3 まで水が減ってしまった水槽

また、職員の安全確保を最優先に行った本館での飼育生物の状況確認には時間を要し、その間に暖かな海域にすむ生物などを中心に多くの生きものの命を失うこととなりました(2024年1月末時点で約90種4,000点の飼育生物の死亡を確認)。さらに危機的状況に陥った最大の要因は、地震直後から断水が発生し、水道水が全く使用できなくなったことでした。エサの準備や掃除など飼育する上で必要不可欠な清潔な水が使えなくなったことで、衛生面で安全に飼育していくことが困難になってしまいました。そこで、(公社)日本動物園水族館協会[JAZA]や(一社)日本水族館協会[JAA]の支援を受け、イルカやペンギンなど大型の海獣類を他の動物園や水族館に避難させることとし、2月上旬までに9種63点の移送を完了させました。

3月に入った頃には断水は解消され

アクアリウム
Aquarium focus
フォーカス



カマイルカ移送の様子

ましたが、水を通すと漏れが見つかり、補修し再度通すとまた漏れが見つかるといった状況が続きました。こうした水漏れ箇所は見える場所だけとは限らず、地中に埋まっている配管もあり、スコップを手掘りして探すこともありました。また、こうした作業と並行して機械設備の動作確認など、普段の生物飼育作業とは全く違った慣れない作業の日々が続きました。そうした中で、私たちだけでは補修ができない大掛かりで専門的な作業については工業者に依頼をしましたが、能登半島全体が被害を受けている中で、工事日程の調整や部材の確保もスムーズには進みませんでした。しかし、多くの工業者がなんとか時間をつくり懸命な復旧作業を行った結果、7月に入る頃には、おおよそその復旧工事終了の目途が立ち、営業再開への道筋が見えてきました。そこからは、水槽に水を張り、ろ過循環の最終確認を経て生きものたちの再展示を慌ただしく進め、なんとか7月20日の一部営業再開の日を迎えたのでした。

営業再開を迎えたとはいえ、一部水槽では未だ復旧が進んでおらず、展示を休止している箇所もありますが、今後順次再開していく予定です。また、未だ避難を続けているイルカやアシカの帰館に向けた、安全な移送方法や日程の調整を避難先の施設と継続して進めています。完全な営業再開が一日でも早く迎えられるよう職員一同、力を合わせて取り組んでいきますので、引き続き応援していただければと思います。

〔高橋〕

魚たちはどうして地震で死んでしまったの？

水族館でもたくさんの魚が死にました。どうして死んでしまったのか、いっしょに見ていきましょう。

生きものが死んでしまった理由を知ることは、とても大切なんだ。



かんきょう

こたえ：環境が悪くなったから

・水温

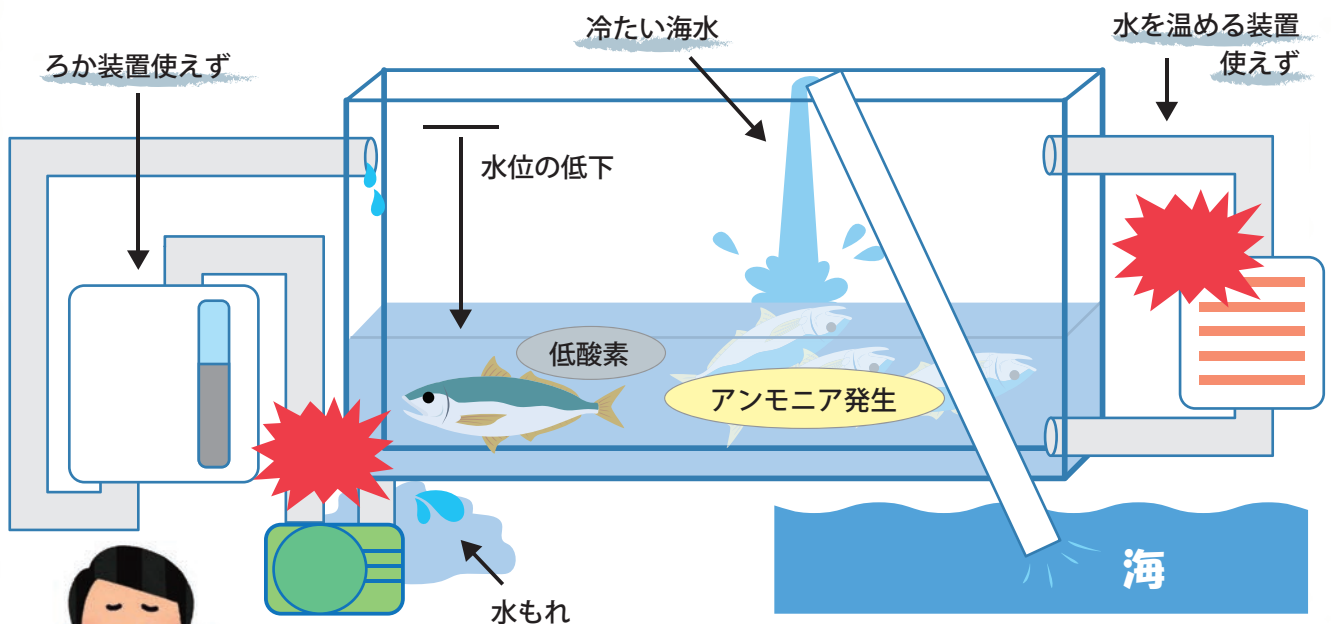
魚は私たち人間などのほにゅう類とちがって、体の温度を一定にすることができず、水の温度変化と同じように体温もかわります。魚の種類それぞれにちょうどよい温度があるので、水の温度が急にかわってしまうと、消化吸収などの体の機能が働かなくなります。

・酸素

水の中には酸素がとけこんでいます。水の中にいる生きものたちにも酸素は必要です。地震が起きたのが冬で海水が冷たく、温かい水そうには新鮮な海水を入れることができず、水そう内の酸素がどんどん減っていきました。

・水質（水のきれいさ）

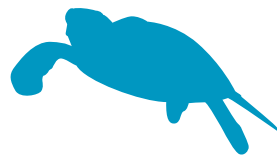
エサの食べのこしやフン、生きものの死がいや放っておくとアンモニアが発生し、水をよごす原因になります。ろか装置（水をきれいにする装置）でアンモニアを分解できないと、水の生きものは大きなダメージをうけます。



水温・酸素・水質、これらの変化によって水そうの環境が悪くなり、魚たちは死んでしまったのです。

ようこそ水族館へ

～生きものたちのエピソード～



「他園館から譲り受けた生きものたち」

地震により、当館も配管や水槽設備などたくさんの被害を受けました。その中でも、暖かい海域に生息している生きものを展示していた「マングローブの水辺」・「南の海の魚たち」コーナーでは、配管の割れにより海水が噴き出す、水槽の水を循環させるポンプが止まる、など大きな被害がありました。その影響で、水槽内の海水を温めることができないうえ、新しい水が入られないことによる水質悪化で飼育していた生きものはほとんど死んでしまいました。

その後復旧作業が進み、2024年7月に一部営業再開が決まりましたが、上記コーナーの復旧作業は完了していないことから、本館出口付近の企画展コーナーにおいて、「南の海の魚たち」を展示することにしました。その際、さまざまな水族館で展示していない生きもの、または譲っていただける生きものはいないか尋ねたところ、全国の6つの水族館からご協力をさせていただけることになりました。

ご協力いただいた水族館は、átoa、魚津水族館、鳥羽水族館、長崎ペンギン水族館、名古屋港水族館、碧南海浜水族館で、表に記載している11種約120点を寄贈という形でご支



譲り受けた生きものを展示する企画展コーナー（南の海の魚たち）の様子

援いただきました。そのおかげで、無事に開館を迎えることができ、展示場所を移した「南の海の魚たち」コーナーとして、7つの水槽で展示ができています。企画展会場内では、「この水族館から来たんだ！」という驚きの声や、「○○かわいいね～」など展示している生きものに興味を持っていただけているような声が聞こえてきて、とてもうれしく思っています。また、個人的には、担当していたコーナーの生きものたちがほとんどいなくなってしまったので、新たに仲間入りしたこの生きものたちを飼育できていることに喜びを感じ、毎日ワクワクしながら飼育作業を行っています。

「マングローブの水辺」・「南の海の魚たち」コーナーは、いずれも2024年9月現在ではまだ修理が完了していませんが、復旧が進み、それぞれのコーナーで、新たに展示できるのを楽しみにしています。最後に、改めて生きものを含め、さまざまな形で支援してくださった皆様、応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。今後も大切に飼育し、来館者の皆様楽しんでいただけるような展示を目指していきたいと思います。

〔田中〕



飼育員がとらえた 奇跡の一枚



『唯一の回遊魚』

地震の影響で、『のと海遊回廊』は擬岩の破損修理のために5月中旬、全てのいきものを他の水槽へと移動させました。その際にブリ属で唯一の生き残りである、ヒラマサを普段はマゼランペンギンがいたプールへと移動させた際の、もう二度と見ることでない奇跡の一枚です。この頃、マゼランペンギンは他館に避難しており、こちらのプールの修理もやっと終了し移動先の最善案がこちらでした。

ヒラマサは回遊魚といって、水流を利用して呼吸をしている魚です。『のと海遊回廊』では強い水流を作っており流れに逆らって回遊魚たちが泳いでいますが、このプールの水流はとても弱く心配しました。ですが、自力で力強く泳いでいる姿を見せられました。また、普段は屋内の水槽で飼育しているためLEDライトで照らされているヒラマサが、太陽光の下で泳いでいる姿もこの写真のポイントです！

今も元気に『のと海遊回廊』で泳いでいる姿を見せてくれるので、みなさんもぜひご覧ください。

改めて、生きていてくれてありがとう。

〔山口〕

およそ7か月ぶりの営業再開！



発災翌日から半年余りとなる臨時休館を余儀なくされた当館で、7月20日からの一部営業の再開に伴い、開館前に再開セレモニーが行われました。セレモニーには馳浩石川県知事をはじめ、多くの関係者のご臨席を賜り、のとじま保育園の子どもたちによる踊りが華を添えてくれました。会場となった水族館入り口前には、セレモニー関係者や報道関係者、そして営業再開を心待ちにしていた方々など多くの人が集まり、これまでの休館中には見ることができなかった賑わいを感じることができました。

発災から営業再開までの期間、当館



では入館者の歓声は全くなく、当初は静寂が一带を包んでいました。その後、時間が経過するにつれ時折その静寂を打ち破るように重機や工事作業の音が響き渡っていました。こうした時期にはまだ先が見通せず、7月の営業再開は私自身全く想像ができませんでした。しかし、工事業者の努力と当館職員の懸命な復旧作業によりこの日を迎えることができました。再開セレモニーを見守りながら、こうした半年余りの出来事が走馬灯のように頭の中を巡りながらも、ようやく実際に再開にこぎ着けたんだと改めて実感するこ

とができました。

とはいえ、未だ完全復旧とは言えない状況で今後は、避難している生きものの早期帰館やショー・イベントの再開、トイレなど設備の復旧を一日でも早く完了させていければと考えています。そして、能登半島全体の復興にはまだほど遠い状況ですが、当館の一部営業再開が能登の復興に少しでも貢献できればと願っています。

〔高橋〕



みなさんからの応援メッセージ



地震によって飼育が難しくなり、飼育動物たちがほかの水族館・動物園のもとへ避難をすることになりました。動物たちが安全なことはいいのですが、私たちスタッフは気が気ではありませんでした。大好きな動物たちの魅力をお客様に伝えることができず、さらには世話をしたいのに動物たちがいないという状況でした。そのため、この先本当に動物たちが戻ってくるのか、私たちはこれから何をしたらいいのかという不安でいっぱいでした。普段とは生活も仕事内容も異なり不安や疲労が蓄積する中、私たちスタッフを勇気づけてくれたのは、各地の動物園・

水族館の方からの支援物資や全国各地から寄せられる応援のメッセージでした。クラウドファンディングやWebフォームからの見舞金の寄付のみならず、たくさんの心温まるメッセージを本当にありがとうございました。みなさんの温かい応援・励ましのメッセージのおかげで私たちスタッフは水族館の営業再開まで走り抜けることができました



た。

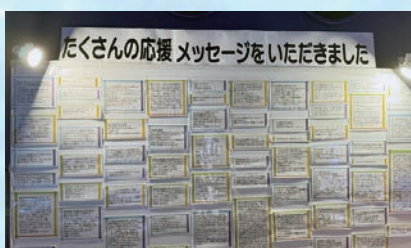
営業再開したことにより、お客様とお話しする機会も増え、さらにみなさんから元気をいただいております。しかし、まだ一部しか再開できておらず、まだまだ修復していかなければならない箇所が多数残っています。

これからもみなさんからいただいた温かいメッセージを糧に引き続き全面復旧できるように頑張っていきます。まだまだパワーアップしていきますので、ぜひ、のとじま水族館に遊びにき

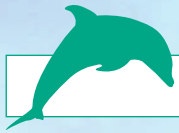


てください。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

〔日比野（真）〕



動物たちの緊急移送



震災により、飼育施設に甚大な被害が及びました。また震災直後から水道水が使えなくなり、復旧の見通しもたたない状況でした。そんな中で、現場からはどうにか動物たちを安全な場所に移動できないかという話が上がり、まず当館から1番近い、いしかわ動物園への移送が決まりました。どんな方法なら安全に迅速に移送ができるのか双方で協議し、震災からわずか3日でゴマフアザラシ2頭とコツメカワウソ2頭の移送を行うことができました。そして全国にはたくさんの動物園水族館があり、当館も加盟している（公社）日本動物園水族館協会〔JAZA〕と（一社）日本水族館協会〔JAA〕に連絡を入れ、動物の受け入れ先を探してもらいました。呼びかけに応じ、全国のさまざまな園館から受け入れの申し出があり、その中で動物たちになるべく負担がかからないよう配慮したうえで受け入れ先が決まっていきました。移送にあたり、移送機材や人員、手続きなどは、受け入れ先の園館にほぼお任せする形となりました。

受け入れ先が決まると、飼育方法が各園館ごとに少しずつ異なるため、受



け入れ先と当館の飼育員で連絡を取り合い、個体の情報（年齢、性別、血統など）やエサの情報（種類、切り方、与え方、給餌量）を共有し、写真や動画を送り合って確認を行いました。例えばペンギンは受け入れ先でもスムーズにエサを食べられるように、受け入れ先の給餌方法に近づけるよう慣らしてみなど、当館でできることを行いました。移送直前は、特に綿密なやり取りが続き、移送経路や当館に着くタイミング、直前の個体の状況などを詳しく伝え合いました。移送の日は、各受け入れ先の飼育員が迎えに来てくれて、それぞれ動物に合ったケージや輸送コンテナに入れて運びました。近い場所でも2時間、遠いところだと12時間以上もかかり、移送の大変さを実感しました。1月4日から2月5日までの

緊急避難先一覧

種名	数	搬出先・園館名	搬出日
ゴマフアザラシ	2	いしかわ動物園（石川県）	1/4
コツメカワウソ	2	〃	〃
ゴマフアザラシ	1	越前松島水族館（福井県）	1/6
カマイルカ	2	〃	〃
ウミガメ類	8	〃	1/14
フンボルトペンギン	10	富山市ファミリーパーク（富山県）	1/17
マゼランペンギン	7	いしかわ動物園（石川県）	1/23
マゼランペンギン	11	上越市立水族博物館（新潟県）	1/31
カマイルカ	5	横浜・八景島シーパラダイス（神奈川県）	2/1
カマイルカ	5	アドベンチャーワールド（和歌山県）	〃
マゼランペンギン	7	すみだ水族館（東京都）	〃
カリフォルニアアシカ	1	新潟市水族館マリニア日本海（新潟県）	2/2
マゼランペンギン	1	いしかわ動物園（石川県）	2/5
カリフォルニアアシカ	1	天王寺動物園（大阪府）	〃

間に、哺乳類と鳥類、爬虫類9種63点の移送を行うことができました。

当館の復旧が進み、飼育施設もようやく直ったことで再開の目途が立ち、動物たちを戻せることになりました。受け入れ先までどうやって迎えるのか、夏場の移動なので暑さ対策はどうするかなど受け入れ先とも何度も協議のうえ準備を進めました。動物たちの体調を考慮した上で戻すための移送日を決定し、7月4日にマゼランペンギンが戻ってきました。およそ6か月間離れていたこともあり、久しぶりの再会にうれしい気持ちと、のどじまを覚えているかな、エサを食べてくれるかなという不安が入り混じった思いでした。そんな不安をよそに問題なく食べてくれた時は、本当にホッとしました。その後も次々と移送が続き、9月10日までにカマイルカとカリフォルニアアシカを除く、全ての種を戻すことができました。

動物たちが目の前にいない中、どう過ごしているのかという不安はありましたが、各移送先から写真や動画を送ってもらうことで健康状態や様子を知ることができました。またそれぞれの園館の飼育方法を知ることができ、勉強になったことが多々ありました。私たちに代わって、お世話をしていただいた各園館のみなさま、そして移送先での動物たちの様子を気にかけてくれた全国のみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

〔竹山〕

営業再開後に開催したイベント

2024年7月20日以降、夏休み期間を中心にさまざまなイベントを開催しました。どのイベントも能登や水族館の復旧、復興を願ったもので、私たち職員も楽しませていただきました。

〇オーケストラアンサンブル金沢ミニコンサート

【開催日】2024年7月20日、8月4・25日 各日2回開催

震災前から毎年春には「いしかわ・金沢風と緑の楽都音楽祭」のイベントとして、水槽前での演奏を行ってくれていたオーケストラアンサンブル金沢によるミニコンサートを開催しました。弦楽四重奏によるクラシック音楽から聴きなじみのあるアニメソング

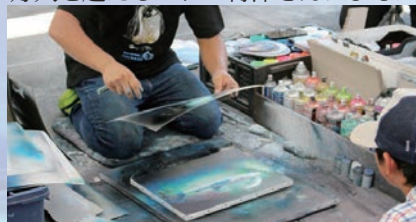


など美しくも迫力のある音色に皆さんも聞き入っていました。

〇スプレーアート実演

【開催日】2024年8月3・4日 各日2回開催

“世界を旅するスプレーアーティスト”として知られ、SNS総登録者数が130万人を超えるエデン梅澤さんによるス



プレーアート実演が行われました。そのスゴ技と完成した作品の美しさに思

わず大きな歓声が上がっていました。

〇書道パフォーマンス実演

【開催日】2024年8月7日

大東文化大学書道部の学生さんらによる書道パフォーマンスの実演が行われました。能登の復興への願いを込めた力強く、華麗なパフォーマンス、そして大きな「希望」の文字に我々飼育員も大きな感動と勇気をもらいました。

〔高橋〕





久しぶりの裏側探検隊

地震発生から9か月が経ちました。避難していた生きものたちも徐々に帰ってきて、水族館ににぎわいが戻ってきました。しかし、ペンギンのお散歩タイムやイワシのビッグウェーブなどのイベントはまだ休止中で、開催されているのはマダイの音と光のファンタジアのひとつのみです。そうした中、地震後久しぶりに実施されたのが、水族館の裏側を飼育員が案内する「水族館裏側探検隊」。地震前は主に飼育員がどんなことをしているのか、水族館の裏側はこんなところ、などを紹介していましたが、地震の被害にあった水槽を紹介したり、地震直後の話を織り交ぜた特別バージョンとして再開しました。

地震発生から開館に至るまでの半年あまり、お客様にしてみると空白の期間。おそらく「地震直後はどんな感じなの?」「魚たちはなぜ死んでしまったの?」といった疑問がたくさんある



揺れている最中の状況を語る飼育員

ことでしょう。それらの疑問にお答えしながら、場所によっては写真を使って被害を語りながら案内していきました。参加者は興味津々で話に聞き入っていました。地震直後から営業再開に至るまで、お客様と接することがなくなり、久しぶりにお客様の前で話す飼育員は気持ちが高ぶりました。地震の被害を伝えることができたのと同時に、改めて人の前で話す楽しさや大切さを知る機会になりました。

参加して下さったみなさん、ありが



とうございます。9月からの裏側探検隊はこれまでのものをベースに震災当時のことも織り交ぜながら紹介していきます。これから参加したいというみなさん、ぜひやる気に満ち溢れた飼育員による裏側探検隊をお楽しみください。
〔釘宮〕



当館では、7月20日の一部営業再開初日から（一財）ポケモン・ウィズ・ユー財団に協力いただき、「ポケモンすいすいサマースタンプラリー」の開催と、ピカチュウフォトスポットの設置を行いました。ポケモン・ウィズ・ユーでは、これまでも東日本大震災の災害支援をはじめさまざまな活動を行っており、今回の「令和6年能登半島地震」でも震災後まもなくから県内でさまざまな支援やイベントを行っていました。そうした中で当館でのイベントの企画、協力の提案をいただき、開催にこぎ着けることができました。

スタンプラリーでは、水族館という場所にちなんでみずタイプのポケモン4種のスタンプを設置し、館内を観覧しながら台紙に押してもらい、すべてのスタンプを集めた台紙をゴール地点に持っていくとオリジナルステッカーがもらえるといったものでした。小さなお子様はもちろん、大人の方まで幅広い年齢層の方がステッカーをうれしそうに手にされている姿を見て、改め



スタンプラリー台紙とオリジナルステッカー

てポケモンの人気のすごさと来館者の喜びや癒しになったのではと感じました。そして、もう一つのピカチュウフォトスポットでも同様にたくさんの方がピカチュウやポケモンたちと青い水槽や海をバックに記念撮影を行っている光景をたくさん目に

ポケモンイベント開催

することができました。当初は9月1日までの夏休み期間限定での開催予定でしたが、たいへん好評だったこともあり9月末日まで延長して開催しました。そして、フォトスポットについては、期限未定で当面の間設置していますので、ご来館の際は記念に1枚撮影してみたいはいかがでしょうか。また今後は、今回のポケモンイベント開催と同様に皆さんに楽しんで、喜んでもらえるショーやイベントの再開、企画を行っていきますので楽しみにしてください。
〔高橋〕



飼育員のお仕事



のとじま水族館開館までの復旧作業

1月1日に起きた能登半島地震でのとじま水族館は甚大な被害を受けました。そこから約6か月半後、まだ完全復旧ではありませんが、営業を再開することができました。ここまでの道のりは長いようで短く、とても濃い時間だったと思っています。地震が起きた直後は、まずは人命最優先で避難を行いました。閉館時間に近いこともあり比較のお客様も少なく、安全かつ迅速に避難することができました。そこからは余震も続いている中で、安全第一で館内の被害状況の確認や、避難されているお客様の安全確保に努めました。特に館内での被害が大きかったのが配管の破損とポンプの故障でした。配管は地中に埋まっていることが多く、全ての破損を確認するにはとても時間がかかりました。現在でも工事は続いており、直ったと思えばまた新しい箇所が見つかる・・・という繰り返しです。



また、ポンプの故障によって水温調節ができず、ジンベエザメや熱帯の魚たちは残念ながら命を落としました。その後も水槽にきれいな水を送ることができず、水質悪化などで約90種4000匹の魚たちが亡くなりました。

ただ、幸いなことに海水を汲み上げることが可能であったため、最低限の飼育は行えていましたが、水道水は止まっており十分な飼育を行えないと判断し、魚類以外の生きものを他園館に避難させることになりました。1月4日から避難のための移送を開始、2月5日までの約1か月で避難が完了し、ひとまず動物たちの安全が確保できました。当館には魚類を中心に生きものが残りましたが、それぞれの水槽の配管が割れていたため、工事のために魚たちの移動も行いました。網やかごを使って飼育員総出で約1000匹の生きものを移動させました。配管の工事は



もちろん工事業者の方をお願いする部分が大半を占めました。時には飼育員が穴を掘って原因を調べたりすることもありました。3月に入り、やっと水道水が出るようになり、水槽の掃除も徐々に行えるようになりました。大きな水槽は普段水を抜くことがなかなかないため、たくさんの水槽を再開に向けて掃除できるいい機会となりました。また、この機会を利用し、水槽についてしまった傷を削ってきれいにする作業も合わせて行いました。初めは紙やすりを使用し、大まかな傷を取っ

てから、ポリッシャーという機械を使って細かい傷を消していきました。さらには、塗装が剥がれてしまったプールは塗装をし直しました。これも工事業者の方をお願いした部分もありましたが、飼育員の手で塗った水槽も多々あります。水槽の工事や掃除、塗装が完了し、移動した生きものは元の水槽にもどりました。これで元通りと思いきや、残念ながら今回の地震で多くの生きものが亡くなってしまったことから、復興の第一歩として新しい生きものを迎えることになりました。仲間入りした生きものを含め現在では約270種、約10,000匹の生きものを飼育しています。



このように、魚類の飼育も行いながら普段することのない作業などをし、再開まで辿り着くことができました。これからはのとじま水族館の完全復活を目指し、飼育員一同力を合わせて、引き続き作業を続けていきたいと考えています。今回の地震は計り知れない被害をもたらしましたが、この地震があったからこそ経験できた部分も多くありました。飼育員としても視野が少し広がり、新たな発見もできた半年間でした。
〔新治〕

EVENT & INFORMATION

企画展

水族館大解剖展

●開催期間 11月2日(土)～3月9日(日)

魚の感覚展

～においや味は感じるの?～

●開催期間 3月15日(土)～6月15日(日)

館内装飾

ハロウィン

●期間 9月下旬～10月31日(木)まで

クリスマス

●期間 11月下旬～12月25日(水)まで

その他

イルカ・アシカショー
休止中

年間パスポート
販売休止中

〔平田 (佳)〕

イベントの詳細や他のイベント情報はホームページをチェック!

のとしま水族館

検索

Aquarium News 2023.10～2024.9

のとアクアニュース

2023.10/7～12/23	水族館裏側探検隊開催 (毎週土曜日)
9/16～10/31	イルカ・アシカショー「ハロウィンショー」開催
10/7～12/24	企画展「水の中のそっくりさん展～あなたは見分けられるか?～」開催
10/9	海づりセンター「レディース day」実施
10/29	チャレンジメニュー「イルカ教室」開催
11/5	能登の豊かな里海講座 (第3回) 開催
11/19	いしかわ子育て支援メッセ参加 (金沢市)
11/26	「サメの日」イベントシロシュモクザメの標本展示開催
12/1～25	イルカ・アシカショー「クリスマスショー～Snow World～」開催
12/1～25	クリスマスイベント開催
12/23・24	サンタダイバー登場!! 開催
12/29～31	休館
2024/1/1	イルカ・アシカショー「イルカ・アシカ 新年初泳ぎ!」開催
1/1	お正月イベント開催、中学生以下入場無料
1/2～7/19	「令和6年能登半島地震」被災により臨時休館
7/20	一部営業再開 再開セレモニー
7/20～	一般入場料特別料金 & 中学生以下入場無料
7/20～9/1	「ポケモンすいすいサマースタンプラリー」開催 「ピカチュウフォトスポット」設置、被災写真展開催
7/20～8/31	週替わりイベント開催 (ウミガメへのエサやり体験、 オーケストラアンサンブル金沢ミニコンサートなど)
8/3～4	スプレーアートエデン梅澤 ライブパフォーマンス開催
8/7	大東文化大学書道部/紀 (しるす) 書道教室 書道パフォーマンス開催
8/9～	のとしま臨海公園「海づりセンター」営業再開
9/7	水族館裏側探検隊再開 (毎週土曜日)
9/2～30	「ポケモンすいすいサマースタンプラリー」延長開催
9/16	敬老の日 65歳以上入場無料 (水族館・海づりセンター)



緑日



ウミガメへのエサやり体験

実習・職場体験等

受け入れ中止

会議・研修会の出席

4/25～26	(公社) 日動水協中部ブロック園館長会議 出席 (愛知県)
5/28～30	(公社) 日動水協通常総会 出席 (東京都)
6/5～6	(公社) 日動水協中部ブロック獣医師研究会 出席 (静岡県)
6/12	化学物質管理 Web 研修 (オンライン)
6/19～20	(公社) 日動水協中部ブロック飼育技術者研修会 出席 (静岡県)
6/25～26	(公社) 日動水協近畿ブロック水族館飼育係研修会 (オンライン)
7/8～9	(公社) 日本水族館協会総会 出席 (山形県)
7/9	能登半島広域観光協会総会 出席 (石川県七尾市)
9/10～11	(公社) 日動水協中部ブロック獣医師研究会 出席 (愛知県)
9/25	(公社) 日動水協ユーラシアカワウソ計画推進会議 (オンライン)



被災写真展

